

人を育み 夢を育む 未来につながるまち ふっさ

福生の教育

福生市公式キャラクター
たっけー☆☆

—編集 発行—

福生市教育委員会
教育部 教育総務課〒197-8501
福生市本町5番地
042-551-1511
(市役所代表)

主な記事 ○福生市平和事業「平和について学び・考えてみませんか」 ○福生市の特別支援教育について

福生市の
食育

食べることを大切に

成長期にある子どもにとって、食は健康な心身を育むために欠かせないものです。福生市が進めている食育と学校給食をご紹介します。

福生市の
給食

地産地消で食育を推進しています

●農業委員 村野 正さんのインタビュー

私は約15年前に当時勤めていた民間企業を辞め、農業の道へ進みました。

地元少年サッカーチームのコーチを長年やっており、子どもたちの声を身近に感じられる環境の中、自身の励みになると思い始めた学校給食への野菜の提供も、12年が経ちました。地元で作った野菜を学校の給食で残さずたくさん食べてもらい、子どもたちには、元気に育ってほしいです。



また、市内中学校の職場体験を毎年受け入れており、給食に使用する野菜の収穫から防災食育センターへの納品も体験してもらっています。

地元で農業をしていて、私が作った野菜を福生に還元できること、福生の皆さんに食べていただけることは、生産者として何よりのやりがいです。これからも皆さんに美味しく、新鮮な野菜をお届けしながら、地産地消を進めていきたいです。

おいしく栄養あふれる給食を公費で提供しています

学校給食は学校給食法に基づき、保護者から納付していただく学校給食費から食材を購入しています。しかし、物価高騰により経済的負担が増加している状況にあることから、保護者の負担を軽減するため、市独自の子育て支援施策として、令和6年4月から学校給食費全額の公費負担を実施しています。

市では限られた予算の中で、安全でおいしく「生きた教材」となる献立作成を工夫しています。

特に、地域で生産された野菜は地場産物として積極的に活用しています。例えば、「福生七夕まつり」の直前には、市内農家の方に特別に栽培していただいたハート型や星形の「ラッキーきゅうり」を使用し、「星のサラダ」として提供しています。



今日の給食献立をご家庭でも話題に!!

食事は家庭が基本です。それだからこそ、学校で食べた給食について、保護者に関心をお持ちいただくことが食育では大切です。

そこで、福生市では公式 LINE アカウントを活用して、令和7年4月から、その日に提供した献立と給食の写真を配信しています。

写真のとおり、献立の紹介は、市の栄養士や栄養教諭が食育を意識して工夫を凝らしています。行事食の由来、食材の特長、食べ方、明日の献立の予告等、子どもたちに伝えていることを、簡潔にまとめて掲載しています。

ご覧いただき、ご家庭内で、ぜひ、学校給食を話題にいただければ幸いです。

ぜひ、福生市公式 LINE アカウント
にご登録いただき、ご覧ください

LINEのQRコード



今日の給食をLINEで発信

福生市の給食は「防災食育センター」で調理しています

福生市では、平成29年9月に新規オープンさせた「福生市防災食育センター」で、毎日約4,000食を調理し、市内全小・中学校と適応指導教室「そよかぜ教室」に配送しています。

災害時には、発生後4日目以降、最低3日間、市内の避難所生活者を対象に、一人一日1回の頻度で、おにぎり2個と汁物を提供します。

本市では、防災食育センターの中に、「食物アレルギー対応給食専門調理棟」を設置し、通常給食が食物アレルギーのある児童・生徒に誤って配食されることがないようにしています。

食物アレルギー対応給食は、特定原材料8品目を通常給食から除去または代替して提供しています。防災食育センターから各学校の配送は、アレルギー対応給食専用の容器に入れて、給食配膳員が学級担任等に直接手渡しする等、十分に気を付けています。



一人一人に対応した給食

「何でも簡単にできる魔法の道具」ではないことは、すぐに分かりました。生成しやすい問いを考え、出力を精査する力が必要だと思っただけの結果は出ません。

でも、いずれそれすらも不要な時代が来るでしょう。その時、人は何を、どう学ぶのか。「試験のための勉強」が消え、誰もが好きなことを好きなだけ学べる時代が来るのかもしれない。

そんな未来につながるよう、まずは今、目の前の子どもたちに「学ぶ楽しさ」を伝えていきたいと思っています。

「AIに『どうして間違ったのかですか?』と問うと、『時刻表を参照せず、青梅線のおおよその本数から時刻を予想した』のだそうです。よほどその方が難しいと思うのですが。」

一部のメディアが言うように「何でもない簡単にできる魔法の道具」ではないことは、すぐに分かりました。生成しやすい問いを考え、出力を精査する力が必要だと思っただけの結果は出ません。

でも、いずれそれすらも不要な時代が来るでしょう。その時、人は何を、どう学ぶのか。「試験のための勉強」が消え、誰もが好きなことを好きなだけ学べる時代が来るのかもしれない。

そんな未来につながるよう、まずは今、目の前の子どもたちに「学ぶ楽しさ」を伝えていきたいと思っています。

未来の学びとは?
教育委員 野口哲也

教育委員会委員「ラム